
きみのこえ

ぺん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きみのこえ

【コード】

N0081BA

【作者名】

ぺん

【あらすじ】

若い作家とお隣の女の子。

彼はそつと彼女に恋した。

綺麗なきみでいてほしいと、

彼は守った、彼女を。

この町に引越してきたのは、おじいさんがいる本屋さんがあるから。あとは別になんでもよかったから、簡単なアパートに越してきた。306号室は角部屋で、他より窓が一つ多いらしいけれど、多分使わない。

デスクトップと本棚があればいいんじゃないかな。なんて言つと編集の杉山が色々用意してくれた。

若い作家さんに御奉仕しにやらんらしいからな、と言つて。

ソファに座つて真つ白な天井を見上げた。

若い作家は杉山に追い込まれて頭パンパンですよ。杉山さん。締め切り伸ばしてくれたつていいじゃない。

ひとつ瞬くと、脳裏に先日聞こえた歌が過つた。

305号室、お隣さんは親子二人暮らしなんだそうだ。愛沢さん。挨拶に行つたときは若いお母さんが優しくよろしくねと言つてくれた。

お子さんはその時学校だったみたいで、今もまだ顔を合わせたことはなかった。

だけど、せつかくだからとあの窓を開けた時、歌が聞こえた。愛沢さんの家からだとはすぐにわかつたけれど疑問に思つた。誰？お母

さんはこんなに可愛らしい声じゃなかった。

お子さんはてつきり小学生の男の子だと思い込んでいた。

存外違うらしい。

女の子なんだ。別にそんなのはどうでも良かったんだけど、知っている歌だったし、綺麗な声だったからいつのまにか聞き入っていた。

それを思い出して、窓を開けてみる。

杉山にはれませんようにと願いながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0081ba/>

きみのこえ

2011年12月31日03時51分発行